

# 米国農務省穀物等需給報告(2016年2月9日発表のポイント)

平成 28 年 2 月 10 日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、2月9日(現地時間)、2015/16年度の10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

—2015/16年度の穀物全体及び大豆の生産量は、消費量を上回る見込み—

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:24億6,955万トン(対前年度比 1.3%減)
- ② 消費量:24億5,623万トン(対前年度比 0.1%増)
- ③ 期末在庫量:5億7,333万トン(対前年度比 2.4%増)  
期末在庫率:23.3%(対前年度差 0.5ポイント増)

### 【主な品目別の動向】

**小麦** :生産量は、インド等で減少するものの、ウクライナで春の降雨による作柄改善から増加、中国、豪州等でも増加することから、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量は、EUで飼料用需要が増加すること等から史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:7億3,577万トン(対前年度比 1.4%増)・・・中国、ウクライナ、豪州等で増加、インド等で減少
- ② 消費量:7億1,141万トン(対前年度比 0.8%増)・・・EU等で増加、中国、インド等で減少  
(前月に比べ、中国、インド等で下方修正)
- ③ 期末在庫量:2億3,887万トン(対前年度比 11.4%増)・・・中国、米国、EU等で増加、カナダ、インド等で減少  
(前月に比べ、中国、インド等で上方修正)

期末在庫率:33.6%(対前年度差 3.2ポイント増)

**とうもろこし** :生産量は、中国、カナダ等で増加するものの、EUで乾燥により減少、米国、ウクライナ等でも減少することから、世界全体では史上最高の前年度を下回る見込み。また、消費量は、中国等で増加するものの、EUで飼料用需要が減少すること等から前年度を下回る見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

なお、ブラジルの生産量は、夏とうもろこしの単収の上昇、及び国内価格高に伴う冬とうもろこしの播種面積の増加見込みから、前月より上方修正。

- ① 生産量:9億7,008万トン(対前年度比 3.9%減)・・・中国、カナダ等で増加、EU、米国、ウクライナ等で減少  
(前月に比べ、ブラジル等で上方修正)
- ② 消費量:9億6,745万トン(対前年度比 1.0%減)・・・中国等で増加、EU等で減少  
(前月に比べ、中国等で上方修正)
- ③ 期末在庫量:2億881万トン(対前年度比 1.3%増)・・・中国、米国等で増加、EU等で減少  
(前月に比べ、中国で下方修正)

期末在庫率:21.6%(対前年度差 0.5ポイント増)

**米(精米)** :生産量は、インド北東部でカリフ米の単収低下、タイで乾燥による収穫面積の減少及び単収の低下により減少することから、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量は、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下し、2006/07年度以来の低い水準。

- ① 生産量:4億6,950万トン(対前年度比 1.8%減)・・・インド、タイ等で減少
- ② 消費量:4億8,368万トン(対前年度比 0.3%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量:8,928万トン(対前年度比 13.7%減)・・・インド、タイ等で減少  
期末在庫率:18.5%(対前年度差 3.0ポイント減)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、アルゼンチン等で減少するものの、ブラジルで現地通貨の下落に伴う輸出競争力増から収穫面積が増加し史上最高が見込まれること等から、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、中国、アルゼンチン等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

なお、アルゼンチンの生産量は、降雨に恵まれ単収の上昇が見込まれることから、前月より上方修正。

- ① 生産量:3億2,051万トン(対前年度比 0.5%増)・・・ブラジル等で増加、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量:3億1,452万トン(対前年度比 4.7%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量:8,042万トン(対前年度比 4.3%増)・・・米国等で増加  
期末在庫率:25.6%(対前年度差 0.1ポイント減)

担当:大臣官房政策課食料安全保障室 松井、浅田 (内線3805)

(参考1)

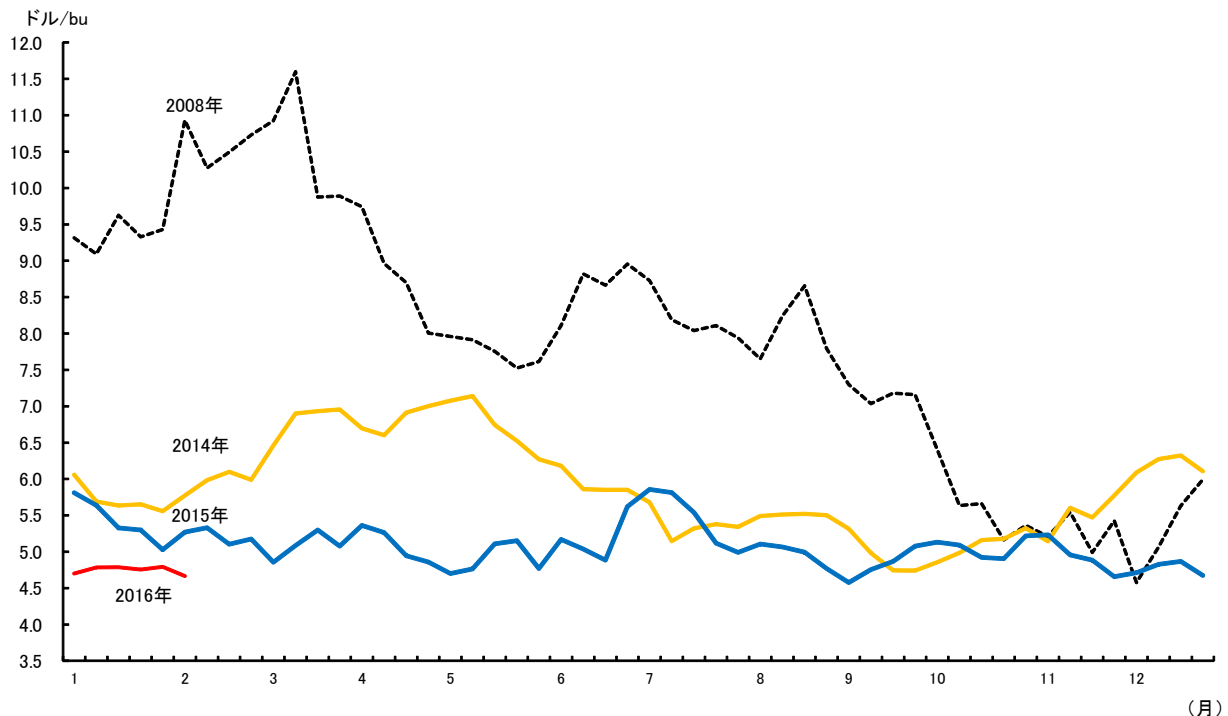
## 世界の穀物の価格動向(2016年)

● 小 麦:4.67ドル/bu(前年同時期の価格:5.27ドル/bu)

(価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2014年2月以降、米国大平原南部の寒波による凍害や乾燥型の天候による冬小麦の作柄悪化懸念、ウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念から7ドル/bu台前半まで値を上げたものの、5月以降、世界在庫が潤沢であること、更に6月中旬以降は、割高な米国産の輸出需要が弱含みであること及び米国産冬小麦の順調な収穫進展等から値を下げ、一時、5ドル/buを割り込んだ。10月以降、大豆/大豆粕価格の上昇への追随や、米国、黒海沿岸地域での寒波による冬小麦の生育懸念やロシアの輸出規制導入懸念等から6ドル/bu台前半まで値を上げた。

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪による土壌水分量の上昇、4月以降の米国春小麦の作付進展等から4ドル/bu台後半まで値を下げたものの、5月以降、米国冬小麦の多雨による作柄悪化懸念・収穫遅延等から6ドル/bu近くまで値を上げた。7月以降、世界全体の供給量が潤沢なこと、米国での収穫進展等から4ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、黒海沿岸地域や豪州での乾燥懸念等から5ドル/bu台前半まで値を上げた。11月以降、米国産冬小麦の作柄改善見込み等から値を下げ、現在は4ドル/bu台後半で推移。

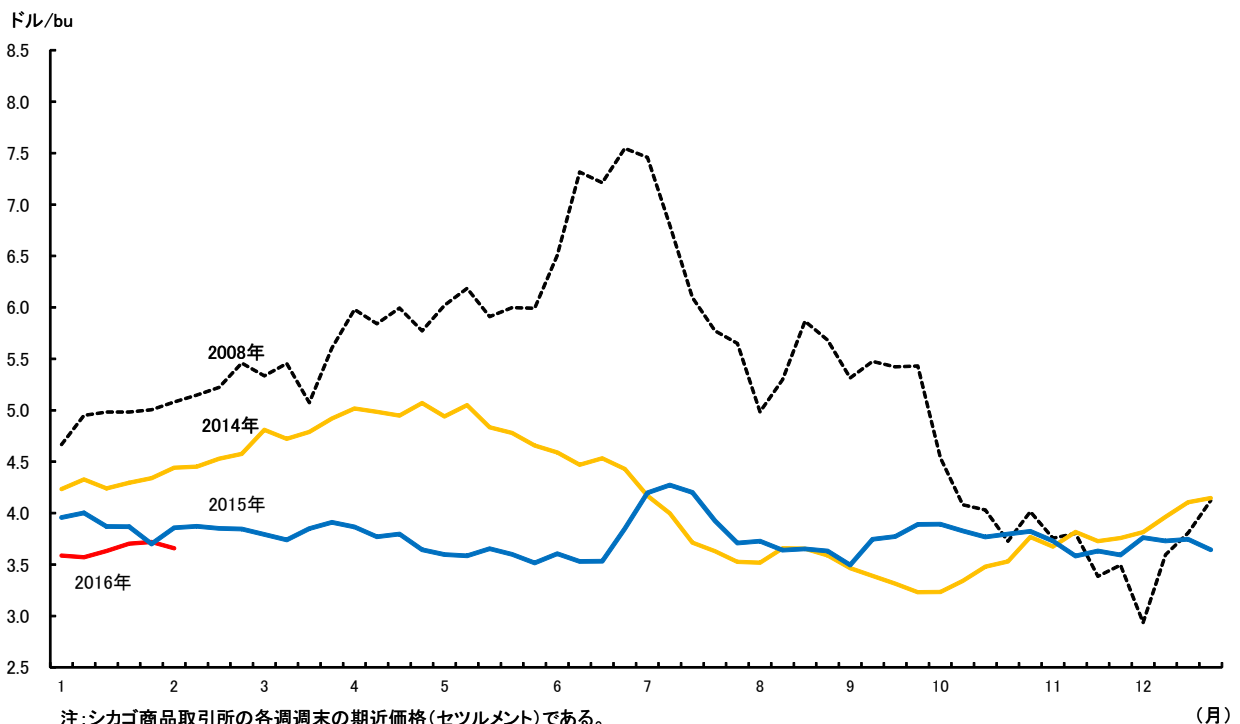


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし: 3.66ドル/bu(前年同時期の価格: 3.86ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2014年1月半ば以降、堅調な輸出需要や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念に加え、米国コーンベルト北部での低温多雨による作付遅延懸念等から5ドル/bu前後に上昇した。5月以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから、3ドル/bu台前半まで値を下げたものの、10月以降、大豆/大豆粕価格の上昇等に追随して4ドル台/bu台前半まで値を戻した。

2015年1月以降、南米の豊作見込みや、4月以降の米国の作付進展等から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、6月中旬以降、多雨による作柄低下懸念等から4ドル台/bu前半まで値を上げた。7月中旬以降、米国中西部での天候回復から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、世界の期末在庫の引き締め見込みから値を上げた。11月上旬以降、中国の在庫大幅引上げや米国の単収見込み引上げによる需給緩和観測等から値を下げたものの、現在は3ドル/bu台後半で推移。



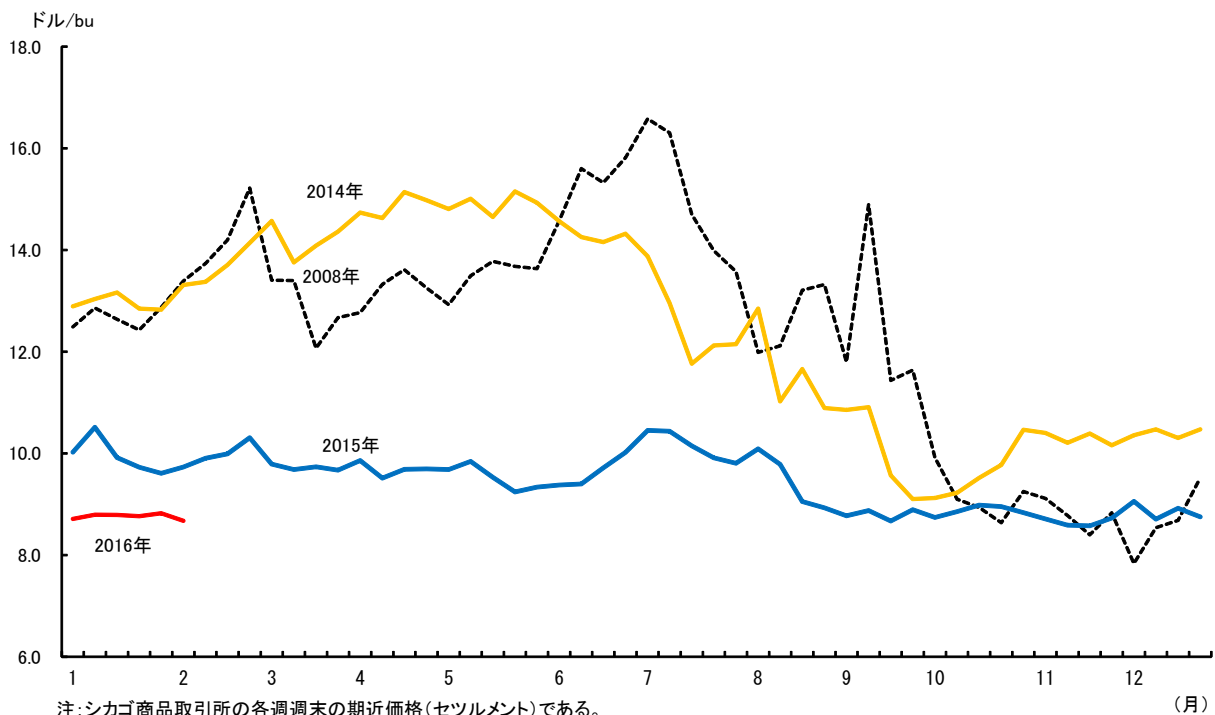
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

(月)

● 大豆:8.68ドル/bu(前年同時期の価格:9.74ドル/bu)  
 (価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2014年2月以降、米国の堅調な輸出需要に伴う需給の引き締めやブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から15ドル台前半まで値を上げたものの、5月中旬以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから9ドル台前半まで値を下げた。10月以降、大豆粕価格の上昇に伴って10ドル台前半まで値を戻した。

2015年1月以降、南米の豊作見込み等から値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻した。5月中旬以降、米国の作付進展等から9ドル台前半まで値を下げたものの、6月上旬以降、米国中西部の一部で頻繁な降雨による作付遅延により10ドル/bu半ばまで値を上げた。7月中旬以降の天候回復、8月中旬以降の中国の輸入減退懸念等により値を下げ、現在は8ドル/bu台後半で推移。

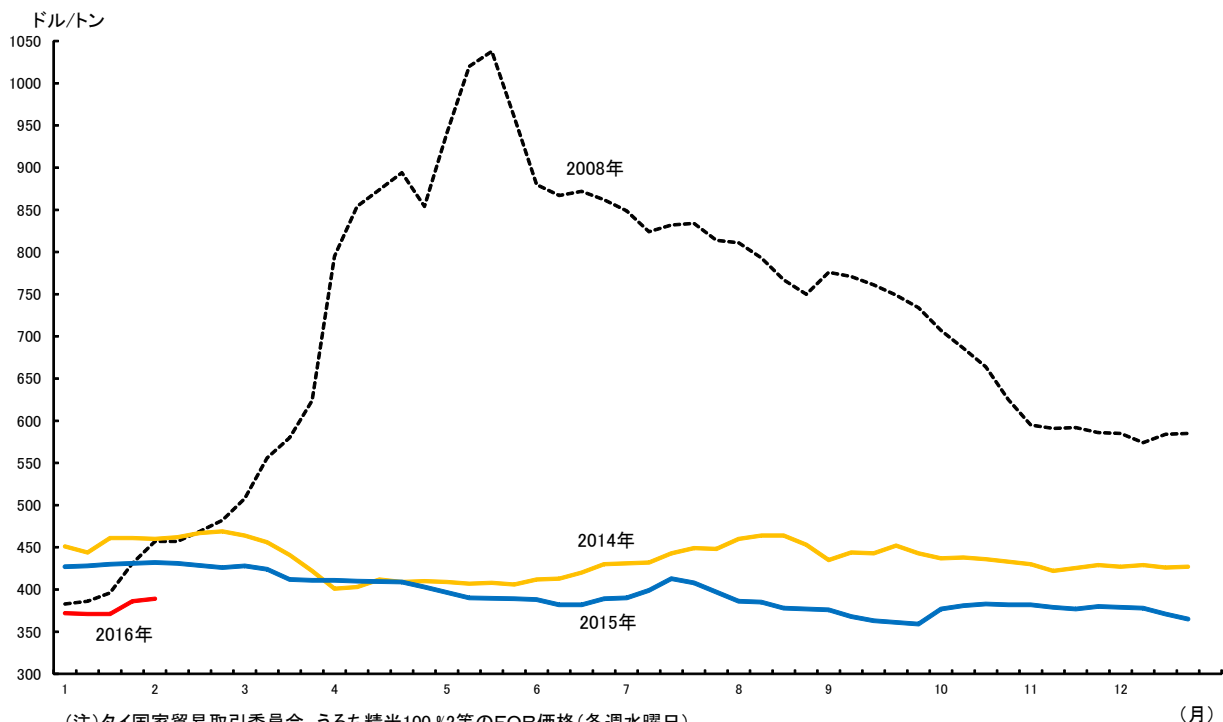


● 米：389ドル/トン（前年同時期の価格：432ドル/トン）  
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における2月第1水曜日のFOB価格。）

2014年3月以降、タイにおける更なる政府在庫の放出により値を下げたものの、5月末から8月末まで、タイが政府在庫の数量や品質を検査するために一時放出を停止したことにより8月には460ドル/トン台まで値を戻した。その後、積み上がった政府在庫を減少させるため、積極的に輸出を行ったことから、420ドル/トン台まで値を下げた。

2015年1月以降も、引き続きタイの政府在庫放出から380ドル/トン台まで値を下げた。タイの干ばつによる供給不足懸念から、7月半ばには410ドル/トン前後まで値を上げたものの、その後のタイの更なる政府在庫放出から9月下旬には360ドル/トン前後まで値を下げた。10月以降、フィリピン、インドネシアの輸入見込みから380ドル/トン台まで値を上げたものの、11月下旬以降、インドでの収穫の進展等から360ドル/トン台半ばまで値を下げた。

2016年1月半ば以降、タイでの水不足により乾季米の作柄懸念が継続していること等から上昇し、現在は380ドル/トン台後半で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）  
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年1月	2月
116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	100.16	109.75	118.24	118.57
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月
120.39	119.55	120.74	123.75	123.23	123.23	120.22	120.06	122.54	121.84	118.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年1月	2月
41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	34.25	26.25
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月
29.00	29.75	28.25	31.00	34.00	37.00	32.80	28.75	28.00	24.40	22.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」  
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年1月	2月
66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	47.33	50.72
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月
47.85	54.63	59.37	59.83	50.93	42.89	45.47	46.29	42.92	37.33	32.65
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成28年1月, 127頁  
但し、28年1月は、「U.S.Energy Information Administration」の1月29日までの週別価格の平均値。